

無溶剤形湿潤面用厚膜エポキシペイント

ネオゴーセー#6000



船・クロムフリー



はけ対応



ローラー対応



神東塗料

ネオゴーセー#6000

ネオゴーセー#6000は、湿潤面でも塗装が可能な湿潤面用の無溶剤形厚膜エポキシ樹脂塗料です。

塗装直後水中に浸水しても硬化への影響を受けにくく、水中硬化の場合でも接着性、耐水性、物理特性など優れた塗膜性能を発揮します。

特長

- 1 湿潤面、水中硬化性に優れるため硬化阻害が起こりにくく、優れた付着性や防食性を発揮します。(P2参照)
- 2 エポキシ樹脂の特長である優れた耐水性・耐塩水性、耐アルカリ性を発揮します。(P2参照)
- 3 1回塗りで厚膜に塗装できます。
- 4 無溶剤形のため、旧塗膜適性に優れています。

用途

- 棧橋、シーバース、海洋開発機器類のスプラッシュゾーン
- 化学プラント、水処理プラント等の水分を十分除去できない設備
- 船舶およびタンク等の施工後短時間で没水する部分
- 水門や水圧鉄管の常時結露している部分
- 浄水場(貯水池、配水池、沈殿池)の内面
- 工場の排液処理槽内面

商品構成

商品名	荷姿	混合比	色相	
ネオゴーセー #6000	3kgセット	(基剤) 2kg	基剤:硬化剤 67:33	グレー (混合後)
		(硬化剤) 1kg		

硬化条件による塗膜性能比較

- 塗装条件 ● 7×15cmサンドブラスト板 ● 塗付量380g/m²(150μm)はけ塗り
 ● 硬化条件 下記の通り。乾燥養生期間はいずれも1週間。空气中、水中共に温度は20℃。

	A	B	C	D	E
試験塗料	ネオゴーサー#6000				溶剤形 エポキシ樹脂塗料
被塗物	乾燥面	乾燥面	湿潤面	湿潤面	乾燥面
硬化条件	大気中	水中	大気中	水中	大気中

塗膜物性

項目	塗装法	A	B	C	D	E	備考
硬 度		H	HB	H	HB	H	鉛筆
光 沢		74	10	66	3	62	60°鏡面光沢度
エリクセン		◎	○	○	○	◎	3mm押し出し
耐 衝 撃		◎	◎	◎	○	◎	500g×30cm×1/2φ
硬化(時間)		6	8	6	8	16	20℃
付着強度(N/mm ²)		3.1	3.2	1.8	1.0	2.7	プルオフ法

※判定法：◎ 異常なし ○ わずかにクラック × クラックあり

耐水性

項目	塗装法	A	B	C	D	E	
耐水性	25℃	3週間	◎	◎	◎	◎	◎
		6ヶ月	◎	○	◎	○	◎
	50℃	3週間	◎	○	◎	○	◎
		6ヶ月	◎	△	○	△	◎
耐塩水性 (3%)	25℃	1週間	◎	◎	◎	◎	◎
		3週間	◎	○	◎	◎	◎
		6ヶ月	◎	○	◎	◎	◎
	50℃	1週間	◎	◎	◎	◎	◎
		3週間	◎	○	◎	○	◎
		6ヶ月	◎	△	○	△	◎

※判定法：◎ 異常なし ○ 0~5%のフクレ △ 5~20%のフクレ

その他の試験結果(被塗物:乾燥状態、硬化条件:空气中の場合)

試験項目	品 質	備 考	
耐水性 耐薬品性	5% 食塩水	◎	常温6ヶ月
	5% カセインソーダ水	◎	〃
	5% 次亜塩素酸ソーダ水	△	〃
	5% 塩酸	△	〃
	5% 炭酸水	○	〃
	5% 硫酸バンド	◎	〃
	5% さらし粉	○	〃
	5% 石灰水	◎	〃
	20ppm 塩素水	◎	〃
そ の 他	鉛筆硬度	H	DRY100μm 7日間
	耐衝撃性	合格	デュポン式 500g、300mm
	付着性	25/25	基盤目2mm
	耐中性塩水噴霧試験	◎	5%食塩水、35℃、500時間
	耐湿試験	◎	50℃、95%RH 300時間

※判定法：◎ 異常なし ○ 0~5%のフクレ × 5~20%のフクレ

標準塗装仕様

鉄部塗り替えシステム

工程	塗料名 (希釈剤)	標準膜厚 (μm)	希釈率 (%)	標準使用量 ($\text{g}/\text{m}^2/\text{回}$)	塗回数	塗重ね間隔 (20°C)	塗装方法	塗装区分
素地調整 ^{注)}	ISO Sa 2 ½ または St3 以上					4時間以内		現場
下塗	ネオゴーセー#6000	150	無希釈	380	1	1日~7日	はけ ローラー	
上塗	ネオゴーセー#6000	150	無希釈	380	1	—	はけ ローラー	

注)・発錆部はブラスト、ディスクサンダーなどを用い、さび、劣化塗膜、水あかななどを完全に除去する。さびの深いところは特に入念に処理し凹凸をなるべく少なくする。

・活膜部は、サンドペーパー等で表面の汚れ、付着物などを除去し、表面を目粗しする。

・著しく腐食した鋼材は表面の凹凸が大きいため、1回塗では凸部まで十分塗装できない場合がある。このような箇所は点錆防止のため補修塗装を十分に行う。

コンクリート新設システム

工程	塗料名 (希釈剤)	標準膜厚 (μm)	希釈率 (%)	標準使用量 ($\text{g}/\text{m}^2/\text{回}$)	塗回数	塗重ね間隔 (20°C)	塗装方法	塗装区分
素地調整 ^{注)}	全面サンダーケレンし、脆弱部・油脂・汚れ・ほこり等を除去し清掃する。素地の巣穴、凹凸が著しい場合は必要に応じて下記のパテ処理を行う。							現場
プライマー	シントーボンド#100プライマー (ユカトップEシンナー)	—	0~10	150	1	8時間~10日	はけ ローラー	
パテ	シントーボンドパテ	—	—	400~600	1	1日~10日	ヘラ コテ	
下塗	ネオゴーセー#6000	200	無希釈	500	1	1日~7日	はけ ローラー	
上塗	ネオゴーセー#6000	200	無希釈	500	1		はけ ローラー	

注)・全面にディスクサンダーケレン処理を行い、被塗面のレイタンス、脆弱箇所を取り除く。また、改修時で下地の傷みが著しい場合、ブラスト処理を行う。

・巣穴、凸凹部、小さなカケ部分はパテ処理にて補修する。大きなカケ・欠損部や干満帯等の下処理はポリマーセメントモルタルで処理する。(SPスーパーセメント#20)

・近距離で直接バーナーを使用した強制乾燥はコンクリート面を弱化させ、割れ等の危険があるので急激に行わないよう注意する。漏水箇所は事前に防水処理を完全に行ってから施工する。

作業上の注意事項

- 被塗面に汚れや雨水等による水溜りがある場合は、十分にふき取り強制乾燥又は自然乾燥にて乾燥してから塗装してください。
- 塗料は基剤/硬化剤を2:1の割合で混合し、塗料を混合するときは、空気の巻き込みをさけるように静かに攪拌してください。巻き込んだ空気は泡となって残ることがありますので、なるべく脱泡して使用してください。
- 使用可能時間が 20°C で25分と短いため必要量だけ混合して下さい。
- 規定膜厚になるよう、ウェットゲージで管理してください。鋼材の孔食など素地の状況によっては3~4回塗りを必要とすることがあります。
- 被塗面がコンクリート等でドライ膜厚が測定できない場合、塗付量または使用量管理およびウェットシクネスゲージで管理してください。なお、ネオゴーセー#6000のWET/DRY膜厚比は1.0ですので、ウェットシクネスゲージでチェックしながらできるだけ均一に塗装してください。
- 塗装後2~4時間(25°C ~ 30°C)で降雨の場合、塗膜表面に白化を生じることがありますが塗膜硬化に異常はありません。
- 下塗りの使用量については、特に素地状態の影響を受けやすく使用量が増えることがあります。
- 低温 5°C 以下での塗装はさけてください。
- 塗装用具類の洗浄には、二液形ネオゴーセーシンナーまたはラッカーシンナーをご使用ください。ただし、塗料が固化しますと溶解しませんので塗装後直ちに洗浄してください。
- 皮膚に付着するとはれたりかぶれたりすることがあります。保護具を着用してください。

データガイド

塗 料 名		ネオゴーサー#6000					
概 要	塗 料 の タ イ プ	無溶剤形エポキシ樹脂塗料					
	色 相	グレー					
	容 量	セット	基 剤		硬化剤		
		3 kg	2 kg		1 kg		
混 合 比	67 : 33 (重量比)						
設計値	タレ限界膜厚	WET 310 μm・DRY 300 μm					
	密 度	1.53g/mL					
	W E T / D R Y 比	0% = 1.0 (%は希釈率)					
塗 装 案 内	塗 装 前 表 面 処 理	標準 新設 ISO Sa2 1/2 以上、塗り替え ISO St3 以上					
	適 正 塗 装 方 法	はけ、ローラー (エアレススプレー不可)					
	はけ・ローラー仕様	標準膜厚 150μm 標準使用量 380g/m ²			被塗物の形状・表面状態により 使用量は若干異なります。		
	塗 装 環 境 条 件	温度	5~40℃	湿度	85%以下	表面温度 50℃以下	
	希 釈 剤	(洗い用) 二液形ネオゴーサーシンナー・ラッカーシンナー					
		温度	5℃	10℃	20℃	30℃	40℃
	使用可能時間	90分	50分	25分	15分	10分	
	乾 燥 時 間	指 触	2時間	90分	45分	30分	20分
		歩行可能	2日	1日	1日	1日	1日
	塗 重 ね 間 隔	完全硬化	7日	7日	7日	5日	5日
MIN		1日	1日	1日	1日	1日	
MAX		7日	7日	7日	7日	7日	
安 全 衛 生		基 剤			硬化剤		
	有規則区分	-			-		
	危険物分類	4類3石・Ⅲ			4類3石・Ⅲ		



ご使用上の注意事項

■調合

- 1.塗料開缶は原則として使用する直前に行い、開缶したものはその日のうちに使用するよう心がけてください。
- 2.多液形塗料の場合、使用する前に電動攪拌機等を用いて十分攪拌を行い均一な状態にして使用してください。
- 3.他品種、他品名の塗料との混合は厳禁です。

■塗装

- 1.塗装環境条件(温度・湿度)の制限は厳守してください。低温時には乾燥遅延となり高湿度では付着不良や塗膜外観不良が生じやすくなります。低温5℃以下での塗装は避けてください。
- 2.塗装後2～4時間(25℃～30℃)で降雨の場合、塗膜表面に白化を生じることがありますが塗膜硬化に異常はありません。
- 3.被塗物の表面温度が50℃以上の場合は、塗装を避けてください。
- 4.被塗面は清浄な状態にしてから塗装してください。
- 5.塗装中および塗料の取り扱いには必要な保護具(帽子、ヘルメット、保護めがね、マスク、手袋など)を使用し、身体に付着しないよう注意してください。
- 6.吸入に関する危険物有害性の表示がある塗料を塗装する場合は、局所排気装置などを設置し、作業時には有機ガス用の防毒マスクやエアラインマスクなどを着用して作業を行ってください。
- 7.塗装器具の洗浄には二液形ネオゴーゼーションナーまたはラッカーシンナーをご使用ください。ただし、塗料が固化すると溶解しないため、塗装後直ちに洗浄してください。

■緊急時の対応

- 1.目に入ったときには、多量の水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けてください。
- 2.皮膚に付着したときには、多量の石けん水で洗い落とし、痛みまたは外観に変化があるときは、出来るだけ早く医師の診察を受けてください。
- 3.蒸気、ガス等を吸入した場合には、できるだけ早く医師の診察を受けてください。
- 4.飲み込んだ場合には、できるだけ早く医師の診察を受けてください。
- 5.容器からこぼれた場合は布でふき取り、その布は水に浸した状態で容器に保管してください。
- 6.火災時には炭酸ガス、泡または粉末消火器を用いてください。

■廃棄

- 1.使用済みの塗料缶や塗料が付着したウエスや残塗料を廃棄する場合は、関連法規に従って産業廃棄物として廃棄してください。

■保管

- 1.残塗料は密封して冷暗所に保管してください。
- 2.子供の手の届かない場所に保管してください。
- 3.塗料の保管は関連法規を遵守してください。
- 4.容器はつり上げないでください。

※安全に関する詳細な内容については、安全データシート(SDS)を参照してください。

※必ず各塗料の個別カタログに記載している注意事項をご確認ください。

※ご不明な点に関しましては、弊社問い合わせ先までご連絡願います。



本 社 〒661-8511兵庫県尼崎市南塚口町六丁目10番73号
☎(06)6426-3355(代) FAX(06)6429-6188(代)

製品に関するお問い合わせ

北海道 ☎(0123)32-0431 FAX(0123)34-6199

北 陸 ☎(076)262-1305 FAX(076)262-1315

四 国 ☎(087)841-1251 FAX(087)843-3108

東 北 ☎(022)285-7915 FAX(022)285-7813

名 古 屋 ☎(052)612-0293 FAX(052)612-0318

九 州 ☎(092)472-2222 FAX(092)473-5777

東 京 ☎(03)5690-0544 FAX(03)5690-0553

大 阪 ☎(06)6426-3763 FAX(06)6429-6268

静 岡 ☎(054)245-0135 FAX(054)247-4091

中 国 ☎(082)264-6822 FAX(082)264-6821

<https://www.shintopaint.co.jp/>

本カタログの内容・仕様等について予告なく変更することがあります。ご了承願います。